

第58回市民ふれあいトーク 【一緒に考える このまちの地域力】

日時 平成27年1月29日 18:30~20:00

場所 倉敷南公民館

要約版

市長

皆さんこんばんは。未だ1月中ですので、お会いしていない方もいらっしゃると思います。新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。今年第1回目の市民ふれあいトークを今日、開催させていただくことになりました。本当にそれぞれお忙しい中、今日お運びをいただきまして誠にありがとうございます。

この市民ふれあいトーク、このように各中学校区にごきます公民館の方にお邪魔をして、地域の課題、市がどういうふうに関与すべきか、皆さんが課題とされていることなどお話を伺いしながら、このまちの地域力、市が良くなっていくように、みんなで考えていきたいという地域型と、もう一つはテーマ型と言い、子育て、防災、商工業の活性化とか、そういうものに特化をしてすることもございます。前回こちらの公民館に伺いましたのが、もう3年ぐらい前になります。その時が第26回で、もうすぐ60回になります。大体月1回ぐらい開催をさせていただいております。いつも私の方が最初に少し、地域のこと、若しくは倉敷市全体の状況などをお話いたしまして、そして、皆様の方からこのまちの地域力、また倉敷市が良くなっていくにはもっとこういうところに力を入れた方がいいんじゃないかとか、どういうところが課題だとか、というところを是非ご意見を頂きまして、すぐ答えられるものばかりではないかも知れませんが、市政の方に反映させていただくようにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

さて 昨年特に 倉敷市だけじゃなくて全国的に話題になりましたことがございました。一つには、全国で今市町村が1800ございます。今後数十年しますと、特に人口が少ない市町村が、ますます人口が減少して半分以下とか、少ない所では3割ぐらいまで減ってしまって、市町村として成り立たなくなる所が、1800の内の半分ぐらいの896出てくるんじゃないかということ、元総務大臣でまた岩手県知事の増田寛也さんという方が、昨年5月に発表されました。その後、国が昨年の秋ぐらいから地方創生ということに力を入れるということで、皆さんもテレビとか新聞でご覧になる事も、最近多くなってきたんじゃないかと思えます。

昔、確か竹下首相の時、ふるさと創生というのがあり、1億円を各市町村に国が配ったことがあったと思います。20何年ぐらい前だったかと思えますけれど、その時とは違う、お金を国から地方へ配って終わりとかそういうことじゃなくて、今、日本の人口は1億2千数百万人いますけれども、それがこのまま何も対策をしなければ、東京ばかりにどんどん人口が集中して地方の人口がどんどん減ると、そうするとこの人口が今から50年内外の時には何もしなかったら、8000万人ぐらいまで減ると言われております。それを国は少なくとも、人口1億人ぐらいの時点で水平になるように、そういう国策をやっていかなくてはいけないんじゃないかということで、色んな政策を考えるということになりましたのが、去年の秋でございました。その後、まち・ひと・しごと創生会議というのが実はできました。実はその会議へ国から私にお声がかかりまして、まち・ひと・しごと創生会議に全国から12人有識者を選んで、そしてその各地域のうまく取り組んでいること、若

しくは有識者としての意見を言ってくださいということで、全国の大学教授とか、子育て団体の皆さんとか、ということで市町村の中で唯一、倉敷市長に声がかかりました。昨年9月から毎月官邸の方で会議がありまして、この12月にその総合戦略というのを国が取りまとめをしたところでございます。たまにチラッとテレビには出たんですけど、そのニュースを見たという方はいらっしゃいますか。ありがとうございます。実はこの近くでは、私と四国の子育て団体の女性の方がメンバーになられまして、自分たちが取り組んで成功していることを発表しました。

倉敷市長がなぜ選ばれたかと言いますと、「子育てするなら倉敷で」ということで、子どもさんの政策を色々やったおかげで、倉敷市の合計特殊出生率というのが非常に全国と比べて上がっていると。今から6年前、私が市長に就任させていただく前が、1.5内外だったんですけど、今1.61になっております。この数字がどのくらいの数字かと言いますと、全国平均が1.43でして、岡山県の平均も1.49で、1.61が倉敷市ぐらい大きな市では非常に高い数字だと思ったんじゃないかと思います。それでたぶんお声がかかりまして。子どもさんの政策で何をやってきたか、例えば学童保育を小学校6年生まで、私が市長になりまして皆様から非常にご要望が多いということで、平成21年の4月から、6年まで基本的に受け入れができるようにしましょうとか、それから7つの保育園を増設いたしましたして、待機児童の数を減らしましょうとか、それから子どもさんの医療費の公費負担を拡大するとかやってきたんです。それによって実はこの数字が出てきたということを発表した。実は今年平成27年の4月から、ようやく国が先ほどの学童保育、児童クラブの小学校6年生までの受入というのを国策として、倉敷市に遅れること6年目でされるということになりました。こういう倉敷市でやって非常に成果が上がっていることなどを発表したことによって、国全体として取り組む。取り組む財源は消費税が8%に上がった分のところから、子育て政策ということで出るわけですけれども、そういうことなども実現されている。もちろん、社会保障、医療、介護の方にもそのお金は使われるわけですけれども、例えば倉敷発ということでそういうことが出ました。

それからまちづくりということで、倉敷市が皆様に大変ご協力、ご心配いただきました倉敷駅北の新しい再開発ということで、みらい公園を造り、非常に多くの方が訪れる場所になったということ、それから駅の南の倉敷美観地区の所に町家古民家の再生ということで、例えば林源十郎商店とか奈良萬の小路とか、それから本町や東町の中の通りに、かなり観光客の方が来ていただけるようになったんですが、そういうことで非常に倉敷の観光の発展が進んでいるということなどを発表いたしました。

そのことによりまして、地方ごとに自分で政策を考えて、そしてうまくいくものに国が支援をしましょうということになったのが、年末に取りまとめられました地方創生のための総合戦略でございます。倉敷市は、またこれから倉敷市のまち・ひと・しごと総合戦略というのを作っていくわけですけれども、全国の中でも非常に倉敷市が注目されていると思っておりますので、市としましては頑張っていきたいと思っております。

また、当南中学校区の地域におきましては、本当に地域の皆様に様々な面でご協力をいただいております、心から感謝を申し上げたいと思います。各小学校での様々な行事でありますとか、コミュニティ協議会さん、また社会福祉協議会さん、そして愛育委員さんや栄養委員さん、民生委員さん、青少年の育成を育てる会の皆さん等々、色々な面で皆さんが活躍していただいていること、大変ありがたく思っております。

今日、是非皆様にこの地域の課題、私も今真剣に取り組んでいるんですが、南中学校の子どもさんが非常に多くなって、狭くなっているという課題でありますとか、また小学校の方は平成20年に南小学校と大高が分かれまして、子どもさんの数は大体安定してきたかなと思っておりますが、色々な課題があると思います。課題や疑問、注目しているところ、それから倉敷市として何が重要で、もっと取り組んだ方がいいんじゃないかとか、そういうお話をお伺いできればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

参加者 A さん

倉敷市で教員をしております。小学生と休日ボランティア活動ということで、子ども観光大使というイベントをやっています。昨年8月のふれあいトークで市長に聞いていただきました。5会場で子ども観光大使、地域の良さを知って、その魅力を発信していく、そのような取り組みをさせていただきました。103名の子どもたちに今年、認定をすることが出来ました。市長にも、知事にも応援メッセージをいただくことが出来ました。1年目は児島で例えば瀬戸大橋だとか、藍染めだとか、やってきたんですけど、今年はエリアを広げまして、倉敷全体の7会場を考えています。今年さっそく1回目茶屋町で、鬼について鬼太鼓をやったり、鬼に関連するお菓子を作ったりして、節分の行事をやらせていただきました。これから先、今年7会場、来年はもっとエリアを広げまして、備中地区で、そして再来年は岡山県全域で広げていけたらいいかなと。そして2019年ラグビーのワールドカップもありますので、そこに向けて海外の人にも地域の良さを発信できるような子どもたち、そして2020年オリンピックもありますので、地域を誇りに思って、そして発信していけるような子どもたちを育てていきたいと考えています。

そこで市長に三つのお願いがあります。一つ目は今年も応援メッセージをいただけたら。二つ目に、もし今年どこか1会場でも参加していただければよいのであれば、是非お越しいただき、子どもたちの様子を見ていただけたらと考えています。それから三つ目に、認定の会というのを考えておまして、昨年は1会場ごとに子ども観光大使に認定していたんですけど、今年は7会場の内2会場に参加してくれた子どもに認定という形で考えています。そこで市長にこの認定証をお渡しいただけるようであれば、大変子どもたちも喜ぶのではないかなと考えています。市長名義の認定証というのは、今年動いて大変難しいというのがわかりましたので、名義ではなくて、市長から「おめでとう」とお渡しいただけるだけで構いません。よかったらご検討をお願いします。

市長

子どもたちが自分の地元のことを深く勉強したりする取り組みで、主に教員の先生とかボランティアの皆さんがされているということだと思っておりますけど、概要みたいなものを皆さんに言ってもらったらと思うんですけど。

参加者 A さん

1月には茶屋町で鬼太鼓と鬼のお菓子を作る活動をしました。鬼太鼓は実際に鬼太鼓保存会の方に来ていただいて、まず本物を見てその後、子どもたちも2、3人実際に太鼓をたたきました。それに加えて鬼のお菓子は実際、地域でプロのお菓子を作られている方、和菓子職人に来ていただいて、本物の和菓子を見て、それを実際に作るというのをやりま

した。それだけではなくてその良さというのを発信していくというのが狙いですので、今日はこんなことが楽しかったという動画の発信だとか、俳句を作って発信をしています。

市長

ボランティアの皆さんが頑張ってくださっているということで、市の名前で認定証を出すのは難しいかとは思いますが、また日にちの相談をしまして、直接子どもさんたちに私の方からも応援が言えるような形ができればいいなと思っております。皆さんの活動は大変ありがたいと思っております。本当に子どもたちが自分の地域のことを勉強してくれるということは大切ですし、茶屋町の鬼の話をされましたが、当地区では堀南も鬼がテーマということで有名ですので、色んな地域のことを勉強してくれるすべをやっていただいているのはありがたいと思っております。

参加者Bさん

沖の者です。市長が冒頭で言われた内容の補足で2点ほど確認させてください。1点は市長が言われた「子育てするなら倉敷で」ということで、特にこの地区は他所とは違っていて、人口が増加の地区です。南、葦高学区ということで南中学校は県下一と、小学校もマンモス校ということで学校環境がやはり悪くなっています。中学校の件に関しましては具体的にできればストーリーを作っていったの増築という形で、前に進めてもらいたいというのが、お願いしたいということ。それから市長は首長の中では一人、女性の市長でなられているということで、地方創生のメンバーでお忙しくされているんですけど、どういことを議論されて、どういうフィードバックをしてもらえるのか、それと頑張った所には予算、特別交付金が全国で4000億以上の取り合いとか、高梁川水域での今市長が進められている人口の割合でこれも交付金が下りてくるということで、こういうお金を取ってくるというのはおかしいんですけど、どういうふう施策されて、それを我々のなくなる倉敷にしてもらえるのかという施策の方を具体的にお聞きしたいです。

市長

南中学校の関係で、ご意見がある方はいらっしゃいますか。

参加者Cさん

江長の者です。南中学校の育てる会の役員をさせてもらっているんですけど、南中学校は今1066人でマンモス校です。県で一番です。それで今、不登校の子どもが24名。その中で学校に全然来られない子が11名、あとの13名は学校に来るんですけど、教室に入れない。時間に遅れてきたり、早く帰ったりしながらでも13名は学校へ来て、先生が空いている時があれば教室へ入って勉強をしようります。私が校長先生に言いますのが、校外にその子を追放するなよと。悪い子がいてもいい。極端なことを言えば隅でたばこを吸ってもいい。校内へいれば先生がいて手当てができる。この生徒を学校から追放したら、コンビニなんかへ行ったら先生は迎えに行かにゃあかん。そうしたら授業が手薄になるというのをずっと言っています。

それと各小学校の通学路に、地域の皆が大勢の目で見てやれば、朝晩の送り迎えが要らんから、勤務やパートも休まずに行けるということを、いつも会議がある度をお願いして

います。南中学校もマンモス校であっても落ち着いた学校になっているのは、一つには隣に中央高校がある。そうすれば通学経路を約1000人の子ども、中央高校の生徒も帰る。やはり目があるから中学生もおとなしくなっているんじゃないかな。それは感謝の反面、道路では皆さんに迷惑をかけております。中学生と高校生が2列になれば、皆さんが通りにくい、皆さんに迷惑をかけとるんですけど、そういう良い面もあると思っております。

市長

はい、ありがとうございます。育てる会の方でも大変お世話になっています。

今、南中学校のことでお話をいただきまして、今から4年ぐらい前でしたか、要望をいただきまして、その時から検討を開始しております。耐震化の工事の方もしていきまして、管内の小学校でもほぼ耐震化も進んできているかと思っております。耐震化をする中でより校庭とかが狭くなって、子どもさんにも狭い思いをさせている所もあるんですけど、やはり、南側にある学校給食共同調理場を移転しないといけないということだと思っております。そのためにはその移転先、一つだけで移転するのか、若しくは倉敷市内にいくつかある共同調理場が、いずれも年数が結構経ってきておりますので、それと合せて移転するのかということをおの間、検討してきております。大体こういう方向でという、最終的な案の所に到達しつつあると思っております。移転して給食調理場を新しく作るとなれば、その地域の皆さんの説明も必要になります。1年でパッとできることではないんですが、移転をすることにより東西の矢柄西田線の方も前に進むということもありますので、それらを一挙に解決できる方法ということで、検討してきております。私も今年こそは南中に伺いまして、具体的な給食調理場が移転する場合の状況とか、それから子どもさんが非常に多くてこうなっているというのを再度よく伺いまして、最終的な方向性が出せればと思っております。ですので、進んできている状況にはございますので、もう少々お待ちいただければと思っております。

それから、子どもさんの不登校とかの課題ですけれど、やはり岡山県のいじめ、不登校、それから学力の面が、非常にまだまだ難しい状況だということが新聞等でも出ています。色んな課題があります。先生の数が足りない、学校の教員は県の職員さんですので、県からなるべく多く配置をしてもらわないといけないんですけど、人数に限りがあるから、なかなか配置をしてくれないので、倉敷市の方で支援員の先生の配置をできる限りしてまいります。例えば、教室に入れない、自分だけでどうすればいいかという状況になる場合に、フォローしてあげるような先生を付けたりしているところです。先ほど言われましたけれど、地域の皆さんと子どもさんの交流というのがこれからの時代、より大切になってきているんじゃないかと思っております。と申しますのは、昨年の中庄小学校で誘拐事件がございました。全国的なニュースになって、地域の皆さんが色々な情報を寄せて下さり、市や警察、消防団の方もそういう情報を基に捜索活動をしたりということで、段々犯人の区域が狭まってきて、捕まえることが出来たということです。その時に本当に私が感じたのは倉敷市だったからこそ、子どもさんが無事に帰って来ることが出来たんじゃないかと思ったんです。地域の皆さんが日頃から見ている情報を寄せてくれる。また消防団とか、地域の皆さんとか警察の人も一生懸命捜索をしているわけで、その様子がテレビにも出る。そうすると犯人ももちろんテレビを見て、自分の包囲網が狭まってきていると、このままでは最終的には自分は絶対に捕まると思った。捕まった場合、子どもさんに危害を加えていた場

合と、危害を加えずにいた場合と。倉敷市で皆さんが見守って下さる大切さというのを非常に感じたわけです。この事件は一つの大きな警鐘になったと思いますけれども、是非地域の皆さんには子どもさんの見守りのこともお願いしたいと思っております。

さて、もう一つ言われました地方創生が一体どのようなことかということでございます。まずこの会議がどのようなものだったかと言いますと、議長に安倍総理大臣がいまして、関係大臣が全部参加をされます。今まで私も入ったことがなかったんですが、総理官邸に大きな会議室がありまして、片側に安倍総理はじめ大臣が並んでおりまして、担当大臣は石破茂さん、それからお金の関係は麻生太郎さん、真ん中に安倍さんがいるという形です。向かい側に12人の有識者がおりまして、私もその中に参加したんです。テレビを見た方からは「市長、安倍さんの真ん前に座ったな」と毎回言われたんですが、実は真ん前ではなくて斜め前だったんです。私の前は財務大臣の麻生太郎さんでした。これからの日本や地方をどうしていくかということで、皆さんが自分の意見を言うという活発な会議だったんです。ちょっと余談ですけども、麻生太郎さんが見てのとおりダンディな感じの方でございまして、会議にちょっと早く行って待っていましたら、キャメルの高そうなコートを着て、そして帽子をいつも着ておられます。部屋に入ってこられまして、私が「麻生大臣カッコいいですね」と言ったんです。「いやあ、ありがとう。伊東さんもいいのを着ているじゃない。」と。その時に着ていたのはこのジャケットだったんですけど、「倉敷市児島のデニム生地のできた地元の服です。」と言いましたら、「ああ、知ってる、知ってる。倉敷市でしょ。児島でしょ。繊維が盛んな所でしょう。」と言ってくださって。

その会議が4回ぐらいありました。2回目以降、子育て政策を全国的なものにしてもらいたいとか、東京から企業が地方に移転する場合に、国が初めて税制優遇措置を取りましょうというのが、年末、新聞に何回か出たんですけども、それをずっと9月から主張してきたんです。もちろん、我々が地元で地域産業を興して頑張るんですけど、今子どもさんが大学に行き、卒業して就職する時に、大量にこの倉敷からも東京に出ていかれてしまって、そうすると全国に転勤となり、なかなか帰ってこられないということがあります。是非、企業の本社機能を地方に移してもらい、そこで現地採用してもらえようようにしてもらいたいと麻生さんにもお願いしてきました。その税制が今回認められることになりました。自分としては倉敷市だけのためではないんですが、日本全国の地方公共団体にきっと役に立つと思って、実現できてよかったなと思っております。

それからもう一つ、私が発表したのは、保育園とか幼稚園の政策に力を入れることによって、もちろん子どもさんが入れるということだけじゃなくて、お母さんが働きに行かれる数がすごく増えます、ということ倉敷市の事例の数で言ったんです。倉敷市が把握をしております市民税を天引きで払ってくださっている女性の働く数は、平成20年の時には4万人ぐらいだったんです。これをするによって4万4千人に、1割増えたんです。保育園に入りやすくなったと、子どもさんを二人目、三人目を産んでも保育園に預けられるから働きにも行けるということで、お母さんも働く方が増えていることなども力説して、だから国としても保育園とかの政策に力を入れてもらいたいということを言いました。

それから今、倉敷市が取り組んでいることは、この倉敷市だけじゃなくて、高梁川流域の市と町が7市3町あるんですが、このみんなが発展するような牽引役を倉敷市が果たしていきたいと思っております。岡山県の人口は190何万人かでございます。その内高梁川流域の新見、高梁、総社、倉敷、早島、矢掛、井原、笠岡、浅口、里庄、7市3町ある

んですけど、その人口が約80万人です。岡山県の人口の40%はこの流域にありますし、ご存知のように我々の倉敷市は一番川下に位置しています。歴史的に見ても上流から土を運んで来てもらって、我々の今住んでいる所も地面になったりだとか、児島や玉島も島だった所が陸地になって、そこで綿花が取れるようになって繊維産業が盛んになったとか、そういう川の流れの中でやってきているということがあります。是非、倉敷市だけじゃなく、高梁川流域の皆で取り組もうということに力を入れております。倉敷市内の中小企業さんが新しい製品とか事業をされる時に、これまでだったら倉敷市の中で物を調達して新しい事業を起こし、それに補助金を出していたんです。他の市との関係では、してなかった。でも今考えておりますのは、例えば倉敷市と高梁市、高梁市の素材を使って倉敷市で物を作って新しい製品を作ります。そうすると高梁市のものも売れるし、倉敷市としても連携して、歴史的な価値が付くものがさらに生み出せるということで、きっと市場の方でももっと評価されるんじゃないかと思って、そういうものにも例えば倉敷市が補助金を出して、一緒にということ。将来、全国の人口が1億2千万人から8千万人に減るので、新見はさっきのパーセントで言いますと、約40%減りますと、確か高梁市は7割近く女性の方が減るというのが出ていまして、非常に危機的な状況だと思っております。ですから倉敷市が引っ張っていくんだ、というつもりでやっていこうと思っております。これは岡山県内では倉敷市が西側の所を、また岡山市さんが平成27年度から東側の備前市とかを取り組みされると聞いております。広島県内では福山市が備後圏域を、広島市が安芸とかを一緒にして、つまり日本全国の中でこういう地方の核となるような市が、牽引役を果たしていこうというのが、地方拠点都市の考え方です。倉敷市としてはこれに取り組んでいきたいと思っております。今回の予算では、その地域で買い物ができるような地方商品券のようなものを作ったりというような案も出ておりますので、補正予算で今後検討していくんですけども、まず今、消費喚起ができるような政策と、もう一つは長い目で見てやっていくという両方やっていきたいなと思っております。

参加者Dさん

堀南の者です。この地域の東西の幹線道路の整備状況と開通の見通しを教えてください。まず矢柄西田線の大高街道から西の部分、それと、新田上富井線、白楽町上富井線、この三本の整備状況と開通の見通しを教えてください。

市長

開通の見通しですけど、その中で現在一番進んでおりますのが、新田上富井線の市役所の所につながる、大高の交番の所から東の方へ行いくところで、お家とか田んぼの所が、結構ご協力を下さっていて、進んできております。今一息というところですが、交渉しているところでございます。

倉敷市全体の道路の考え方としては、これまでは幹線道路が途中までしかできていないのが結構ありました。私が市長になりましてから、とりあえず、効果が上がるものは早めにとということで、進めてきているところです。それから、国道2号線、バイパスの高梁川の橋を渡る前の辺りまで、今4車化になっておりまして、高梁川の橋の所が4車化になっておりません。非常に混んでいるんですけど、ようやく去年の9月から工事を始めるようになりまして、あと5年ほどで、高梁川の橋の所も4車線化になるという予定になってい

ます。それからもう一つは、イオンの前の通りです。イオンの前の通りがオープンしたのが、確か、2年ほど前、ここは県道です。実は、JRの山陽本線の所を挟みまして、なかなか環状のところ、道が弱いということがありました。駅北の一つの大きな環状線ということで、ここは確か金光船穂線、県道なんですけど、なるべくこれを早くしてもらいたいということで開通していただきました。もう一つ、今やっていますのが、真備船穂の方に橋をかけております。これは真備町と船穂町が平成17年8月に倉敷市に合併した時に、合併をしたんだから、早く行けるようにしてもらいたいということで、この橋をかけるといって、これがあと1年ほどで開通する予定です。なるべく環状線と、そこから幹線として各地区の方へ行けるようにということで、頑張っております。

それで、矢柄西田線、白楽町の上富井線の方は、なかなか進んでおりません。特に矢柄西田線の方は、先ほどの南中学校の給食調理場の部分を解決しない事には、南中学校の給食調理場を移転しました時には、結構進むようにはやっております。何年に開通するという事は言えませんが、そういう状況でございます。

それから、まだ進んでおりませんが、この中で最大の問題点は、倉敷駅の高架だと、私はまちづくりの観点から思っております。今も県にお金がないと言われておりますけれども、お金を少なくすればできないのかと検討しております。そう簡単には進むとは思えませんが、このように、一番真ん中にありまして、この線で町が分断されているということがありますし、それが今の状況なので、少しでもこの環状を進めなくてはということで、割と大きな環状線を広げて、交通の分散を図っております。もう一つは倉敷市として非常に重要だと思っておりますのは、水島臨海鉄道。水島臨海鉄道を是非もっと活用していけるようにしたいと思っておりますが、それにはやはり倉敷駅への乗り入れが必要です。そうすれば、水島臨海鉄道各駅の周りには、まだまだ土地があるので、便利になれば近くに、例えばマンションとか、まちをもっと作りたいとか、もうちょっと地域の人々の移動が広がって、水島地域の方ももっと、人の動きが出てくるのではないかと思っております。児島の方には、粒江小学校の所のトンネルができて、あちらのトンネルの出たところの車線を広げるというか、木を切ったりしまして、路側帯の所を広げて通りやすくしたりしまして、行きやすくなっておりますので、市域全般としては進んできているとは思いますが、まだまだ頑張らないといけないと思っております。

参加者 E さん

倉敷駅のことです。工事がほぼできたのか、外枠が外れて、こぢんまりと倉敷の駅らしいというのか、姿を表しているんですが。通路が通勤・通学の人たちが通りやすくするように歩いてるんです。あれはいつぐらいに外れて、まともになるんでしょうか？

市長

今年の春、まだJRから発表はありませんが、大体4月ぐらいに、改札を出て左に行ったらお土産屋さんがあって、そこにATMがあるんですけど、そのすぐ横にエレベーターをつけるようにしています。その工事があるのと駅ビルの工事があるので、狭くなっているんです。真ん中にあるスロープをとり外すことになっていきますので、あそこは随分広くなります。スロープかエレベーターかどっちかしか、安全対策上作れないということで、市議会でも議論があったり、市民の皆さんからもご意見をいただいたりしたんです。色々

と検討して、JRとも交渉した結果、倉敷市として、どちらかを取るかと言えばエレベーターを取らざるを得ないということで、エレベーターの工事を今、しています。

参加者Eさん

それと駅の北側、あそこもシーズンの寒々しい感じです。アリオの中も、本屋さんが去年撤退したんですが、その後、別の店が入るとるんですけど、やっぱり近くに本屋さんがないというのは非常に。図書館がいくらカバーしとると思うんですけど、新しい本を読みたいと思うと。郊外にいけばありますけど、駅の近くじゃない。いつも友達と話すのに、倉敷の文化としてはさびしいなと。そういう案はないんですかね。

市長

前に本屋さんが入っていたということもありますので、一応、市の方からも希望は言っています。それと駅の北のアリオさんの本屋が撤退したということですが、アリオが下火になっているということはないです。平成23年11月にオープンして、ちょうど3年ぐらい経ちましたので、アリオもアウトレットも各店舗さんは1回契約が切れるようになるんです。色々検討して、引き続き入ってもらうのか、もちろん後から入りたい方もたくさんいらっしゃいますので、次の店舗と契約するというのが、色々検討されているというのが一つ。またアウトレットの方も、増床をきつとされることになっていくと思います。今、岡山のイオンも出来て、非常に心配をされている方もいらっしゃるわけですが、アリオにも聞きますと、確かにオープンしてすぐの時は、ちょっと下がったんですけど、お正月の頃にはもう大して変わってないと言われているんで。イオン倉敷も混んでおりますし、倉敷市としては、岡山のイオンに来た人が是非倉敷にも来て、色々観光してもらいたいなと思っております。

倉敷駅がごちんまりしていると言われました。規模は15万人ぐらいの市の駅ですよ。倉敷市にとっては、駅のやり替えというのは念願です。ただJRとしては駅の高架ができるまでは最小限でいかないと、2回投資はできないから、JRとしても高架の時に全部やり替えするという方針でいらっしゃいますので、もう少し頑張りたいと思っております。

参加者Fさん

沖の者です。沖地区の人口が昭和40年代初頭には大体100世帯くらい、約300人前後だったと思います。ここがご承知のように、昭和55年に区画整理が完了しました。皆さんの非常なご尽力によって、完成して今のような状況になっている。39年の3月には60戸だったんです。現在では1100戸の2800人。大体1世帯2.5人くらい、そんな状況になっています。他の地域でも同じですが、非常に少子高齢化が進み、お年寄りの方がどんどん増え、独居老人世帯が増加しております。沖の地域は、急に区画整理の完成によって発展し、他の地域から来られた方が多いです。そんな状況の中で、これからの時代、地域におけるふれあいが非常に重要視される時代になっていると思っております。

そうした中で、沖の公民館いわゆる集会所、39年3月に建て替えた時には60戸で建て替えて、そして築50年を経過した現在、5~6年前から、地域の皆様のご協力を得ながら、改築と言いますか、建て替えをやっていかなければと取り組んでおります。いずれ、具体的な計画案が進んでいきますと、市の助成金もいただきながら、進めていきたい

と思っております。皆さん近隣でも、それぞれ公民館を建て替えておられます。沖が唯一残ってきている中で、何か建て替えに向け、参考となるようなご意見、ご指導を賜りたいと思っております。

市長

50年前と比べ60戸から1100戸。倉敷市の中でも中心部の地域として成長されていらっしゃる、本当に市にとりまして、大変大切な地域であると思っております。

今、沖の集会所の建て替えの計画をされているということですが、いつごろという計画とか、具体化はどのくらいでしょうか。

参加者Fさん

やっと土地が、隣地が買収できまして、昨年からは具体的にはやっておりますが、そういう状況で、市の窓口とはずっと前から色々指導を受けながら取り組んでいるところです。約3年計画で進んだらいいがなと、そのようなところで。

なかなか皆さんに寄付していただく問題が、今の状況の中では大変厳しいです。800万円の建築費は最高額をいただけるかと思えます。が、それだけでは土地を買収しているので、なかなか難しいと。何かもっといい方法と言いますか、お知恵拝借を願いたいということでございます。

市長

確か、沖の公民館さんは放送設備も何か申請を出されていますよね。市の施設ではないので、できる補助は限られております。市の予算の確保ができなかったら困りますので、何年計画で大体この頃にやるというのを、前もって言うておいていただければ、それが一つと。たぶん、自治総合センターの助成金を出されているんじゃないかと思えますけれども、あれも宝くじが原資ですので、必ず100%当たるわけではないです。なかなか当たらないです。確か、去年も出していただいて外れたので、今年26年度になるべく入れてもらいたいということを、市も一生懸命アピールしております。それでも必ず受かるかどうかはまだ最後にならないとわかりません。もしそれがだめでも、来年出していただいて、実績をだしていけば、当たる確率もちょっとずつ上がっていきますので、それも一つあると思えます。設備という面では、使えるものが限られております。福祉の面で言えば、例えば日本財団で福祉の車両とかいうのもあるんですけども、地域の集会所ということになりますと、例えば、物品ではないんですが、地域の届出避難場所になる場合には、一定の防災グッズを市から配付させていただくという制度とかもあります。建物を建てた後にエアコン設備が別途あると思うんですが、ただ新築する場合にはそれの中に入ってしまうと思えます。また別途、ご相談していただければと思えます。

参加者Gさん

四十瀬から来ました。今日最初に、地方創生を尋ねようと思ったら、市長さんから説明していただいたんで結構でございます。それに沿って、実績を上げていただきたらと思えます。

それで人の流れについては、井原線が開通してから、あれが倉敷駅へ入って、それ

から水島臨海への継続は今もできていないですね。ぼくは機会があるごとにお願ひしようなんですけれども、朝、箭田から水島へ行く人が相当あると思うんです。乗継に一旦、外へ出て、それから乗り換える。福山なんかは井原線ができた時に電車が福山駅に入って、福塩線なんかへ乗継ができたんで、なんで倉敷ができなかったんかなと思って。

それと、バスターミナル、駅の南。ぼくは現役の時に広島によく行っていました。広島バスターミナルは3階までバスが上がっております。そうすると、加計からも安芸からも奥の方のバスも入ってくる。それに従って、お客が広島へ降りてくる。倉敷では今、バスが限られている。備北が入り、岡山のバスも入り、そうすれば相当、倉敷へ人が寄ってくるんじゃないかなと思います。

市長

まず、井原線の倉敷駅乗り入れのことについては、倉敷市また沿線の自治体も要望しているんですけども、何が一番ネックかと言いますと、JRの線路代でございます。つまり、倉敷駅から伯備線のほうにJRの線がありまして、JRがある一定のダイヤでやっているわけです。そこに井原線が通ることになると、JRから線路を借りないといけないこととなります。その線路代の借り賃とダイヤを倉敷に乗り入れするとなると、ある程度頻繁にしないとイケないので、そうすると今の伯備線のダイヤの本数を減らしたりしないとイケなくなるということです。JRさんが試算をしてみると、何千万円とかじゃなく、かなりの高額な金額になるということもありまして、なかなか実現できていないというのが一つあると思います。一つには倉敷の駅のやり替えて、先ほども言いましたが、水島臨鉄も直結するとかという時に、もう一度それに向けて交渉するというのがあるんじゃないかなと思います。その時には、今、言われましたように南側のバスターミナルのことも、3階建てにはならないと思いますけれども、バスターミナルで人の動線と車の動線を大幅にやり替えるということになると思っております。今も長距離バスも来ているんですけども、もっと倉敷に観光のルートバスとかも来てもらえるようにと交渉もしておりますけれども、更に駅のやりかえをするときに言っていくようにしたいと思います。

参加者Hさん

市長さんがインタビューを受けられた山陽新聞の記事、20日頃の記事を読ませていただきました。最初のほうの次元の高い話は、私は質問できないんですけども、後ろの方で、公約に掲げた保育所の新設、自主防災組織の組織率向上、浸水対策についての所で。お聞きしたいのは、自主防災組織の組織率向上について、どう考えられておられるか、と私は今、防災士を持っておりまして、最近、倉敷市防災士有志の会というのを立ち上げて、活動を始めたところなんですけれども、組織率向上の考え方と、お願ひは、倉敷市防災士有志の会のバックアップといたしますか、フォローを是非お願ひしたいと思います。

それと、もう一つ、浸水対策、私も3年前、台風12号でものすごい浸水があった時、へまをして、用水に落ちこたったことがあるんです。また、年末に備中県民局の周りを防災の目で見て回ったことがあります。あちこちにオープンな用水がありまして、非常に危険だなという感じを持っております。市長さんが浸水対策をどのように考えておられるのかと思ってお聞きしたいと思います。

市長

最初に自主防災のお話を言っていました。倉敷市の自主防災組織は平成16年の台風災害の時まではほとんどないような状態だったんですけれども、本当に地域の皆さまのご尽力・ご協力のおかげで、今やっと50%を超えました。確か年末で53%か54%くらいまでやっと上がりまして、率の上がり方も以前、ほとんど0だった時と比べたらずいぶん良いと言われております。それでも新聞とかにでますと、県内の組織率の中では市は低いと言われてたりします。ただ、言い訳をしますと、市によっては、コミュニティ協議会ができていたら、コミュニティが入っていれば100%と計算されるところがあるみたいで、倉敷市としては実際の数字で、世帯で入っているところの数がでているので、半分くらいが入っていただいているということになっているかと思えます。それで、自主防災組織の組織率の向上などの面で、防災士の皆さん方には大変お世話になっています。防災士の方の数のほうも増やしていくようにということで、コミュニティの会長さんとか、役員の方が受けてくださったりして、本当に市としては何百人か増やしていきたいと思っています。それからさっきも少しお話ししましたが、届出避難所。届出避難所と言いまして、市の公的な避難所、幼稚園、小学校、中学校などの公的な避難所以外で、地域で避難所まで遠い場合に、地域の集会所など届出避難所として、ある一定の基準がいるんですけれども、認定をすることもできます。そういうものを増やしていくことによって、より身近に防災のことを考えていただけるような仕組みを作っていきたいと思っております。

それで有志の会の皆さんたちが頑張っていたいただいているということも伺っておりますので、うちの防災の方ともよく連携していただけるようお願いしたい、防災の担当にもしっかりそのつもりでやってもらえるように思っております。

それから浸水対策でございます。最初に言うのを忘れていたんですが、12月の年末に、国のほうから、地震のパーセントがちょっと上がったというのが出たと思えます。これから30年以内に震度6くらいの大地震が起こる割合が38%だったのが、2%上がって、40%になりましたというのが出ました。だから段々近づいてきております。それで起こった時にどうなるかというのを、津波ハザードマップや浸水の洪水ハザードマップを各戸へお配りしているんです。一応、南海トラフの地震が起こった時には、倉敷市内では震度6強くらい、結構揺れます。6強の地震が起こりまして、3時間くらいしてから、約3.2mくらいの津波がくる可能性があるということです。平成25年8月にこれを各家庭に広報紙と同じような形でお配りしました。これを見たことがあるという方はどのくらいいらっしゃるでしょうか。70%くらいですね。これまでのハザードマップに比べて今回は、例えばここだったら、南小学校とか大高小学校とか保健所とか、非常口のようなマークを書きましたのと、それぞれの海拔のメートルを表示しました。南小学校だったら、2.6m、でもこちらのほうまでは津波はこない想定でございますので、大丈夫だと思えますが。このマップでご自分が住んでいらっしゃる標高だとか、どこに避難所があるのを見ただけで簡単に作っております。酒津の堤防は切れることはないんですが、国からこれを配らないといけないということで、もしも酒津の堤防が切れた時に倉敷の町が何メートル浸水するかということを示すようになっているのが、洪水・土砂災害ハザードマップです。今高梁川の本流にこの辺りで、真備からきている小田川が合流します。ここで合流していることによって、小田川のほうも高梁川の勢いが強いから、なかなか水が抜けなくて、洪水がおきやすくなる、それから小田川からも水がきているので、酒津の

ほうにも圧力がかかりやすくなる，ということで，もし切れたらどうなるかということで作ったのがこのマップです。

今，酒津のことを言いましたけれども，柳井原の貯水池があります。洪水などの可能性を極限までなくするために，小田川からくる水を柳井原の貯水池のほうへ。今，池ですので堰があるんですが，それを切って，高梁川の下流に流れてくるようにする事業が，平成26年4月から国の事業として認められました。これも何年もかかってお願いしたんですが，大きな事業ですので，5年とかでできるものではないんです。それによって，ここの堤防が切れる可能性は極限まで0に近づくと考えております。もちろん，市役所も浸かることもないかと思っております。本当にここが切れたら，我々倉敷市だけでなく，岡山市まで水がいくと言われておりますので，そんなことはないようにと思っておりますが，とにかく防災に力を入れていきたいと思っております。

参加者 H さん

今のお話とは別に，大雨が降ったために児島湖が満水となりました。排水ポンプのことを教えてください。

市長

3年前の時にものすごい雨が降り道がほとんど見えなくなって，水路がどうかかわからないようになって，葦高小学校にも避難者の方が何名も来られてということになりました。その時の原因は，吉岡川から倉敷川の本流のほうに流れて，そこから末端の児島湖に流れる水の水位が，とにかく全く下がらなかったというのが一番大きな問題です。児島湖に莫大なポンプを造ればいいんですけど，莫大なポンプを造るためには大変なお金がかかります。農水省が色々な検討をしているんです。それまであんなことはなかったですから，児島湖の水位を下げるといふ児島湖の管理の人の作業と，それからそれぞれ川の所の樋門をあけたりする作業の，まず児島湖で干潮の時に水を抜いておいて，段々早め早めに抜いておくという連動ができていなかったというのが，事実だと思います。一番，児島湖の所が課題もあったと聞いておりますので，それが解消されてはきました。倉敷市からも児島湖の今の状況がオンタイムで見れるようなホームページも作ってもらったりして，ずいぶん前よりは連動してできるようになったということと，それから県も川の浚渫とか，詰まる所の物の除去とか進めてくれたりとか，もちろん，抜本的には児島湖の堤防の所に莫大なポンプを設置するというのも，可能性として，全くないということではないんです。莫大なお金がかかるということと，もう一つは，全国的に大きな堤防の耐震化をしないことには，ポンプを設置できないということなんで，まず耐震化してから，ポンプを設置しましょうということに，農水省としては検討しているみたいです。莫大なポンプがすぐできることにはならないかと思っております。ただ前よりは，水門・樋門の管理者の方が操作をしていただきやすいような状況にはなっているかとは思っております。土木委員さんにも大変お世話になっていると思っておりますけれど，よろしくお願ひしたいと思っております。

参加者 I さん

西富井の者です。地域力ということで，私はこの地域の活力を今後も保つ，向上させるということがこの地域とともに，倉敷市に必要なではないかと思っております。この地域が色々な

点で住みやすいということで、私も移ってきた者の一人です。

今も、住宅やマンション建設が行われておりますが、つくづく感ずるのは、各建築の建物の所に入ってくる取り付け道路が、非常に無計画というか、家を建てるために道路を取り付ける。ところが、こちらにも道路はあるんだけど、真ん中のところで土地の所有者が違ふために一本の通路ができない、そのためにくるくる回ったような行き止まりの所がある、これを道路行政の一つとして、建築の時に考えていただく必要があるんじゃないかと思ひます。非常に痛切に感じます。それが一点。

もう一点は、教育の話がありました。小学校・中学校とも非常にこの付近は子どもが増えております。大変良い学校だということで、この地区に移ってくるそれが一つの理由だと言っておられる方もいます。小学校の時はいいんです。それが中学校・高校となりますと、段々と進学の問題ができてきて、そのために岡山の方に移るとか、あるいは都会にでていくとかいう人が結構おるんです。これはやはり中学校・高校を含めて、教育の強化というのを図らないと、一つの文化都市としてのイメージも落ちるんじゃないかと思ひます。そこらあたりが今後必要じゃないかと思ひます。特に高校もたくさんございますが、一つくらいは何か特化した進学校を作ったりしないと、結局優秀な人は岡山に行っている。こういうのを防ぐのと合わせて、塾通いを減少させるためにも、学校教育のレベルアップが不可欠じゃないかと思ひております。

市長

道路のことは市の行政としましても、先ほど言われたように、入ったらどこが出口かわからなくならないように、できる範囲で指導をしております。今後も色々なまちづくりの中で、市も道路を良く見て、検討していきたいと思ひております。

それから、教育のことですけれど、具体的に進んでいるわけではございませんが、天城高校などは中高一貫ということで、県立になりました。今1校だけですが。今後もそういうことが進められないかとか、若しくは先ほど言われたように非常に英語教育に力を入れる学校、若しくは、大学と高校の頃から連携するとか、本当に色々な特色を出していくというのは非常に大切だと思ひています。先ほどの地方創生のこともそうです。子どもさんたちが本当は武者修行にも行ったほうが良いと思ひますけれど、ただ最終的にはとにかく倉敷に帰って来て、我が町を支えてもらわないといけないと思ひています。そういう思いを持ってもらえるよう、子どもの頃からの教育、例えば、今、小学校では倉敷市民憲章を今まで掲示していなかったんですけれども、掲示をして、読み上げたり、意味を勉強したりするとかということをやっております。そういうことから始めて、県などともよく連携して、学習環境が良くなるように頑張りたいと思ひています。本日は色々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。